



時計台の鐘

第 69 号

さっぽろ時計台の会
会長 木原直彦
札幌市中央区北1条西2丁目
重要文化財・時計台内
TEL 011-251-5944



設立三十年を迎えて

会長 木原直彦

大通り公園あたりを歩いていると、よく「時計台はどこですか」と聞かれます。

ビルの角を曲がってヒョイと飛び込んでくる時計台はなんとも風雅で、

まさに札幌の歴史と文化に磨かれた財産にほかなりません。

昔を偲ばせる建物がしっかりと溶けあつてこそ、

街の風格というものでしょう。

逆にいえば、あそこに時計台がなかったら、

どんなに味気ないことか。

その時計台は、今年で創建一二七周年にあたります。

私もこの会も、

時計台をまもる市民の会として発足し三十周年という節目を迎えました。

あの頃、しばしば時計台移転論や無用論などがあつたのです。

そんな危機感から時計台に親しんだ者が集まって結成したのですが、

市民のなかに時計台が心の風景としてシッカリ棲みついた今、

もう「守る」ことの必要はなくなり、

素直な気持ちで愛着を深め高めよう

「さっぽろ時計台の会」に改称（昨年6月5日）したのでした。

変わることなく観光客に喜ばれている時計台ですが、

最近ことに顕著なのは市民の皆さんによる文化的な催しが大好評なこと

そんなことから、わが会が主幹になっている時計台まつり実行委員会では、

今年の二十四回目から舞台を時計台に移すことになった次第です。

お力添えをいただければ嬉しく思います。



第23回時計台まつり記念行事盛會裡に終了

9月14日札幌市民会館大ホールで行われた音楽フェスティバル、及び7月中旬から募集した児童絵画展、市民文芸作品コンクール、10月11日～17日に開催されたそれぞれの優秀作品の展示、更には、10月16日に行われた時計台創建記念式典・優秀者の表彰式と今年度予定されていた時計台まつり記念行事が大きな成果を得て無事終了いたしました。

第23回時計台まつり記念行事収支計算書

【収入の部】

科目	摘要	前年度決算	本年度予算	本年度決算
負担金・ 寄付金	札幌市負担金	700,000	700,000	700,000
	さっぽろ時計台の会	381,210	450,000	370,197
	北海道新聞社	100,000	100,000	100,000
	時計台ライオンズC	100,000		0
	梅津奨学院		150,000	200,000
	北海道電力		20,000	20,000
	広告料ほか		200,000	0
収入合計		1,451,210	1,450,000	1,390,197

【支出の部】

科目	摘要	前年度決算	本年度予算	本年度決算	
総括	会場費(式典看板代)	18,000	18,000	18,000	
	会場整備費	11,000	11,000	7,500	
	記念アルバム代	25,000	25,000	20,000	
	式典関係費(感謝状等)	8,130	8,000	1,050	
	呈茶関係費	8,000	8,000	0	
	通信・文具費	158,662	68,000	57,532	
	実行委員会会議費		38,000	2,079	
	雑費		52,000	48,340	
	総括合計		228,792	228,000	154,501

科目	摘要	前年度決算	本年度予算	本年度決算
児童絵画 文芸作品 展	審査員謝礼	61,120	60,000	65,000
	審査会費	20,000	20,000	7,350
	賞状・副賞	88,989	92,000	124,643
	保存写真費	7,700	8,000	0
	会場整備費		0	0
児童絵画・文芸作品展合計		177,809	180,000	196,993

科目	摘要	前年度決算	本年度予算	本年度決算
音楽フェ スティバ ル	看板代	45,000	45,000	45,000
	交通・謝礼費	453,748	436,500	494,300
	音楽会場費	414,370	420,000	403,680
	会場整備費	15,500	16,000	15,000
	印刷費	100,800	109,000	80,283
	雑費	15,191	15,500	440
音楽フェスティバル合計		1,044,609	1,042,000	1,038,703

支出合計	前年度決算	本年度予算	本年度決算
	1,451,210	1,450,000	1,390,197



音楽フェスティバル

9月14日(火) 17:30~20:30

出演参加団体

- ・札幌市立幌南小学校吹奏楽部
- ・札幌市立厚別北中学校吹奏楽部
- ・東海大付属第四高校吹奏楽部
- ・陸上自衛隊第11音楽隊
- ・岩崎伝札幌鬼剣舞
- ・tokitoki フラ・レレ

6つのプログラムによる音楽会であったが、大ホールの座席を8割以上埋める盛況であった。出演団体もそれぞれの分野を代表するレベルの高い演奏を披露し、また市民団体の演技も彩りを添え、鑑賞者に十分な感動を与え好評であった。

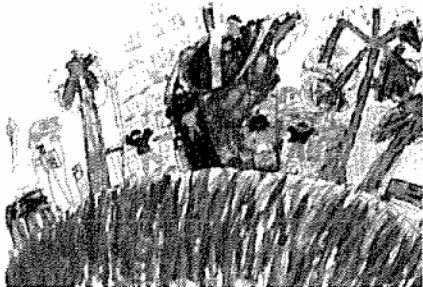


児童絵画展

児童絵画展については今年の応募数が昨年度の3分の1と数的には低調であったが、内容面では手をかけた作品が多く質的には見劣りがしないという審査員の先生方の評価がありました。次年度は応募の周知方法、応募案内時期等検討する必要があると思います。

審査委員

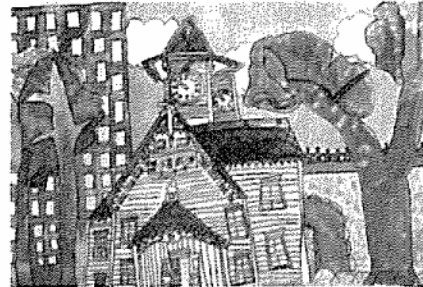
- ・審査委員長 米谷哲夫先生 全道展事務局長
- 八田博之先生 (発寒小) 札幌市教育研究協議会図工部会長
- 東 尚典先生 (大谷地東小) 同会専門委員
- 八子晋嗣先生 (山鼻南小) 同会専門委員



市長賞 相内みなみ (幌西小3年)



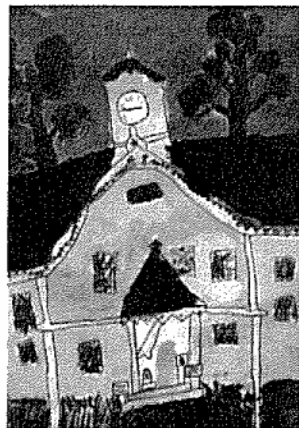
教育長賞 石部絵梨奈 (山の手小6年)



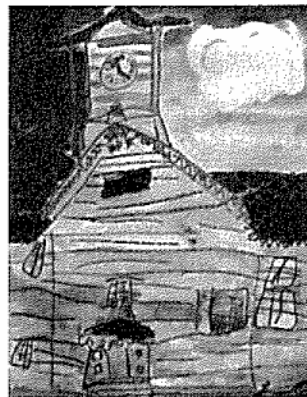
道新賞 岩瀬りつ (宮の森小4年)



道新賞 菅原和正 (平和小5年)



NHK賞 米野将平 (西園小2年)



時計台賞 大浅直也 (新陵小1年)



梅津奨学院賞 神村翔子 (宮の森小6年)

市民文芸作品コンクール

文芸作品コンクールは例年どおりの応募数であったが、応募者、受賞者が固定化する傾向があり、このことにどう対応していくかが今後の課題です。

審査委員

- ・代表 齋藤 大雄先生 北海道詩人協会前会長
- ・詩の部 原子 修先生 「新 壘」主宰
- ・短歌の部 足立 敏彦先生 日本伝統俳句協会会員「道新俳句」選者
- ・俳句の部 高橋 笛美先生 「川柳さっぽろ」主宰
- ・川柳の部 齋藤 大雄先生
- 橋本 征子先生 日本現代詩人会会員
- 坂田 資宏先生 「原始林」選者
- 谷口 亜岐夫先生 北海道俳句協会常任委員「氷原帯」主宰
- 吉田 泉陽先生 「北海道川柳連盟」事務局長

川柳	俳句	短歌	詩
特選 上林 貞信	優秀賞 広瀬 恭子	優秀賞 辻口 憲次	優秀賞 該当者なし
あすなろの夢響かせる時計台	夕焼や明日の夢打つ時計台	二眼レフ持ちて最初の被写体は	
優秀賞 広瀬 恭子	優秀賞 柏谷美智子	時計台なりき五十年前	
繁ぐ掌に幸せ刻む時計台	夏空を鋭角に切る時計塔	アカシアの匂ふこの街あゆむとき	
優秀賞 加茂 鉄也		時計台の鐘やわらかに鳴る	
青春のページをめくる時計台			
優秀賞 徳橋 忠			
絵手紙をはみだしている時計台			

会長 北海道新聞文化賞受賞の榮

平成16年11月12日の道新記事より抜粹

社会部門

「さっぽろ文庫」全100巻の編集長 道内文学活動振興に尽力

木原 直彦さん (74)

札幌市豊平区

八年に財団法人化)の事務局長として資料収集に奔走していた七六年、編集長に迎えられた。「市長に基本構想を尋ねると「何もなないんか、任せろ」と。それなら札幌を知るための百科事典にしよう」と決めた。参考文献や索引もつけました」

中学生でも気楽に読めるという点にこだわり、平易な文体を心がけた。執筆者は延べ三千二百人にも及び、歴史や芸術、生活など多岐にわたるテーマを多角的に掘り下げてきた。

当時、さっぽろ文庫の編集等は札幌市資料館の北側、文学館事務局は南側にあり、まさに「足のわらじで館内を走り回っていた」という。「休日も子供たちを遊ばせたいという。休日も子供たちを遊ばせたいという。休日も子供たちを遊ばせたいという。休日も子供たちを遊ばせたいという。

札幌の文化と暮らしを語り継ぐ「さっぽろ文庫」の編集長として、会誌等を刊行。変化を続ける札幌の姿を克明に記録してきた。一九七七年から二十五年前の大事業だ。「そう出来のよい仕事だったと思わなければ、好きだからこそ続けられた。多くの方々の協力のおかげです」と感慨深げだ。「さっぽろ文庫は当時の板垣武四市長が二期目の公約として掲げたもの。任意団体「北海道文学館」(八めたのは二十三歳の時。「北海道

道都探究 25年で完結

略歴

- 1930年 47 旧制室蘭工業大学(現室蘭工業高)卒
- 48 旧制室蘭工業大学(現室蘭工業高)入局(61年、札幌地方簡易保険局へ)
- 67 北海道新聞(88年に財団法人化)事務局長
- 75 北海道新聞(88年に財団法人化)事務局長
- 77 北海道新聞(88年に財団法人化)事務局長
- 83 「北海道新聞」代表・編集長に就任
- 86 「北海道新聞」代表・編集長に就任
- 88 「北海道新聞」代表・編集長に就任
- 94 「北海道新聞」代表・編集長に就任
- 95 「北海道新聞」代表・編集長に就任
- 96 「北海道新聞」代表・編集長に就任
- 2002 「北海道新聞」代表・編集長に就任

事務局からのお知らせ

▽会の活動について

時計台まつり記念行事をはじめ、設立三十年を迎える会の活動にも新たな視点で見つめなおす時期に来ていると思われまます。本会の三十年にわたる活動の軌跡をたどると四つの大きな流れがあります。発足当初(昭和五十年)は会の設立目的に沿った時計台愛護活動が中心でした。春の外回り清掃、足場を設置しての大規模な全館清掃、時計台案内標識の設置、植樹、時計台PRチラシの作成、時計塔保守協力等の活動を行ってまいりました。昭和五十四年の愛護活動事業費は七十万円であったが、その後予算の拡大に合わせて増大し、二百万円にものびりました。

昭和五十四年八月ごろから沸き起こった時計台移転論争(この以前からも水面下でいろいろあったようですが)を受けて、会としても本格的に取り組むこととなり、昭和五十六年度の活動方針のトップに「時計台の現位置保存に協力する」ことが明記されました。また、会員募集のプリントの中にも、このことが会則の上部に明記されるようになりました。この移転論争は消えては燃え、消えては燃えと平成五年七月に現位置保存と一応の結着を見るまで十数年にわたって続きましたが、本会の活動の主流ともなっていたのです。他の二つの大きな流れは、前述し

事務局からのお知らせ

た昭和五十七年からスタートした「時計台まつり」の活動と、昭和五十二年度から本格化した時計台記念品販売事業です。以上述べた四つの大きな流れの中で本会は活動を続けてきたのですが、近年は記念品販売事業と「時計台まつり」の二本が活動の主体となっており、会員に正しく理解を得られる活動になっているかどうかを振り返る必要があります。

▽会の活動に対し会員の皆様の声を聞かせてください

以上のようなことから、事務局では会員の皆様の忌憚のないご意見・ご要望をお聞きしたいと考えております。どうぞ事務局まで、お手紙またはファックス等でお寄せください。四月中旬に予定されている新年度の総会に取り上げたいと考えております。

▽事務局長が替わりました

永年にわたり会の活動にご尽力を頂いた本間昭治郎氏に替わって、昨年五月より事務局長を務めることになりました太田忠而です。市内の中学校校長を定年退職後、四年間社団法人北師教育文化振興会の事務局長を務めておりました。この度ご縁があって本会のお手伝いをさせて頂いたこととなりました。貴重な市民活動を続けてきた歴史と伝統のある本会の活動に少しでもお役に立てればと思っております。よろしくご指導・ご支援のほどお願い致します。